【市議会最前線】高校生が議会で主張「富士高生の主張　in　富士見市議会」＝富士見市（埼玉県）

26/11/02 08:00 Nf1

富士見市議会では、埼玉県立富士見高等学校と連携し、高校生が地域や市政について学び、身近な課題を発見し、調査・提案・発表する主権者教育に取り組んでいます。

埼玉県立富士見高等学校との連携は、平成30年度に実施した生徒会との意見交換から始まり、市長への提案書提出などを経て、令和5年度から現在の「富士高生の主張　in　富士見市議会」へと発展しました。現在は、高校の学習科目「総合的な探究の時間」と連動した年間の学習活動として実施しています。

この事業は、高校生が地域課題や行政に対する理解を深め、自ら考え発信する力を培うとともに、議会や政治を身近に感じてもらうことを目的としています。探究学習と主権者教育を結び付け、生徒・学校・議会・行政が連携し、地域への関心や参画意識の向上を図っています。



「富士高生の主張　in　富士見市議会」の様子

具体的には、高校生が学習科目「総合的な探究の時間」の中で、地域の課題を設定して調査し、議員との打ち合わせを経て、議場においてグループごとに発表します。議場では、大型スクリーンやオンライン配信を活用し、来庁した生徒のほか、学校にいる生徒も傍聴できるよう環境を整えています。また、学校では、先輩から後輩へ学びが継承される仕組みが作られています。

当日は、発表した高校生だけでなく、約190人の生徒が参加・傍聴し、議会への理解と関心が広がりました。令和6年度には、議場で発表した高校生のグループが、SDGs　QUESTみらい甲子園埼玉県大会において、2024年度アイダ設計賞を受賞するなど、探究活動の成果にもつながりました。

事業の継続・発展には、学校の全面的な理解と協力が不可欠です。高校生の参加意欲をより一層高めるため、発表後の振り返りなど、フィードバックを充実させ、地域課題への関心をさらに高めるとともに、市政や議会に主体的に関わる機会を創出していくことが課題です。

これからも富士見市議会は、高校生の声を受け止めながら、若い世代が地域や市政への関心を高め、自ら考え、発信し、地域の担い手として参画できるよう、主権者教育に取り組んでいきます。（了）

本記事の無断転載を禁じます

Copyright © JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.